

短期間出店用のカウンター。今月は週に2日、パンの販売が行われている

県立大 学生会館食堂一新の多目的空間

「トワトワ」好評です

県立大（総社市窪木）が学生会館の食堂をリニューアルして整備した多目的空間「towa（トワトワ）」が、学生たちに好評だ。県産ヒノキを用いて温かみのあるカフェスペースを設けるなど、飲食や談笑の場として活用されている。住民ら学外の人間が利用できる時間帯を従来より広げ、交流拠点機能も強化している。（寺尾彰啓）

総社

開学30周年記念し整備

食堂（約600平方メートル）は大学ができた1993年からあり、開学30周年記念事業として昨秋、約3千万円をかけて一新した。オープンスペースで、ソファでくつろげるカフェエリア▽テーブルや椅子を置いた飲食エリア▽大画面モニターを備え、ゼミやウェブ会議に対応するレクチャーエリアからなる。席数は計300。

設計にはデザインを学ぶ学生チームが携わり、特にカフェエリアはヒノキの柱や梁をむき出しのまま配置するなど独特な空間演出が目を引く。今後、学生の作品展示用ス

県産ヒノキ用いたカフェ 短期出店カウンターも

ペースもつくる予定。

通常の飲食提供は業務を請け負った事業者が行うが、店舗などが短期間出店できるカウンターも設け、学生の選択肢拡大や地域事業者の支援を狙う。

リニューアル後は連日多くの学生でにぎわっており、「以前より明るい雰囲気、活気がある」と現代福祉学科2年上林千花子さん(20)。旧食堂時代にもあった無料WiFiに加え、今回新たに電源も整備され、パソコンで自習していた人間情報工学科3

年奥谷碧大さん(21)は「ゆっくり作業できる」と話した。トワトワは公募で選んだ愛称。フランス語の「toi（あなたの意）」、日本語の「永久」「と和」を掛け合わせた造語で、「人が集い語り合う場」を表現したという。一般への開放時間は平日午前8時40分～午後6時半（以前は同午前11時～午後1時半）に拡大しており、同事務局は「気軽に立ち寄り、大学に親しみを持っ

てほしい」とする。



県産ヒノキを使ったカフェエリアでくつろぐ学生たち

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。